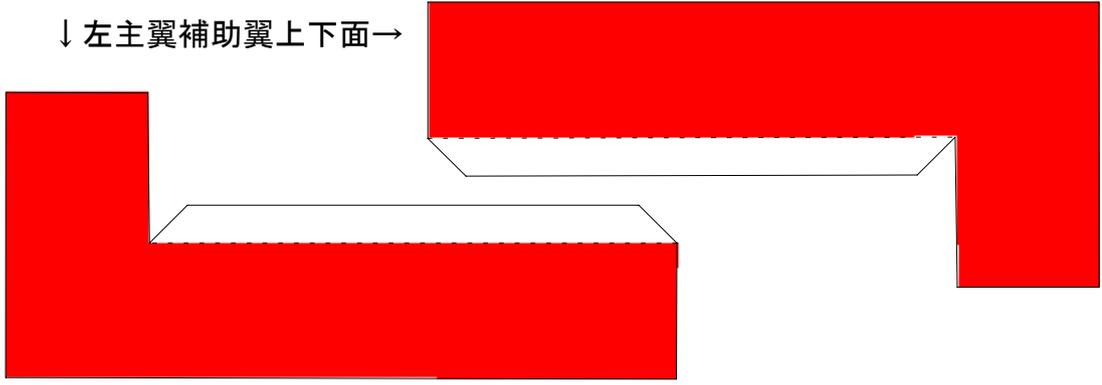
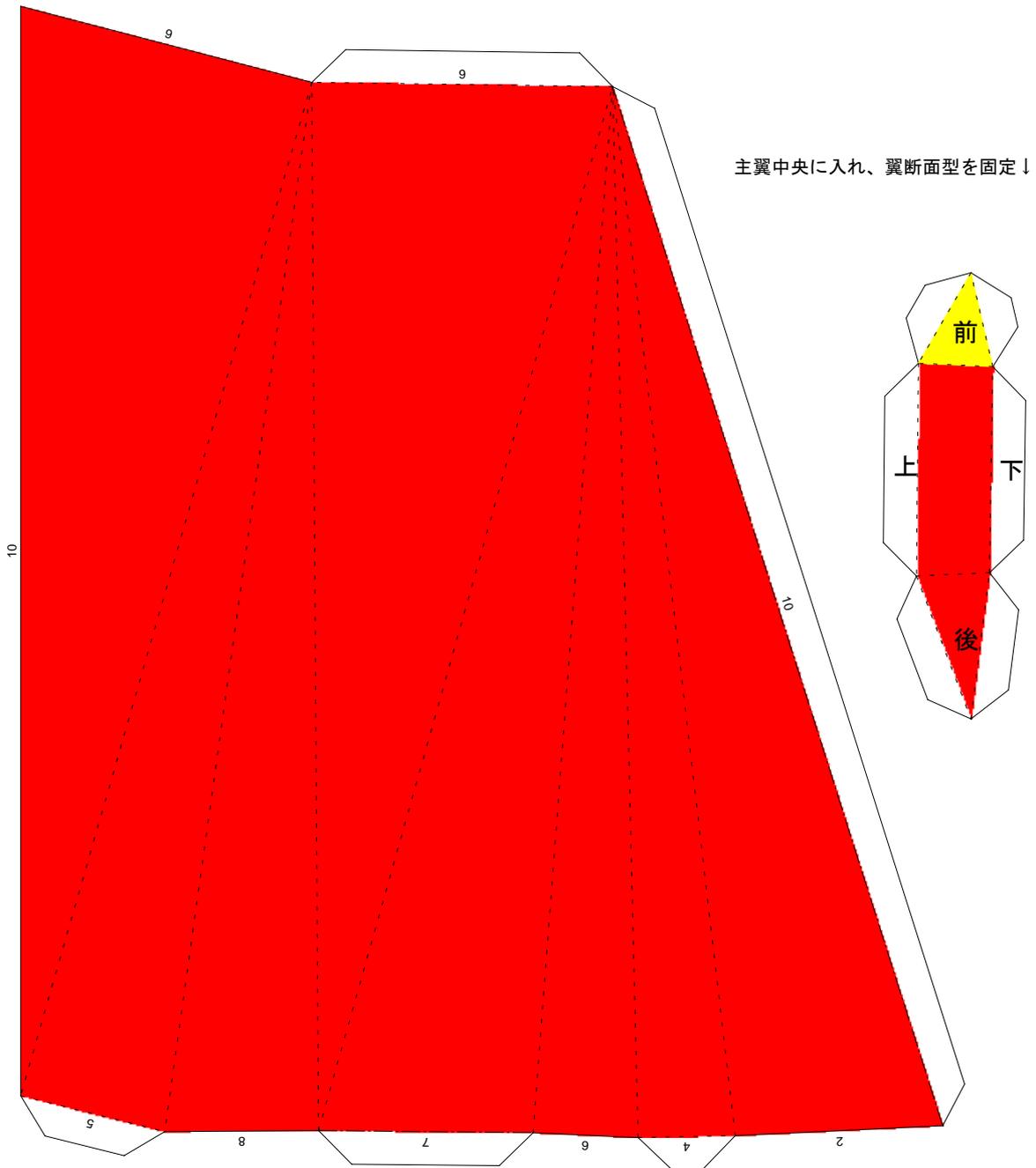


↓左主翼補助翼上下面→



左上主翼↓

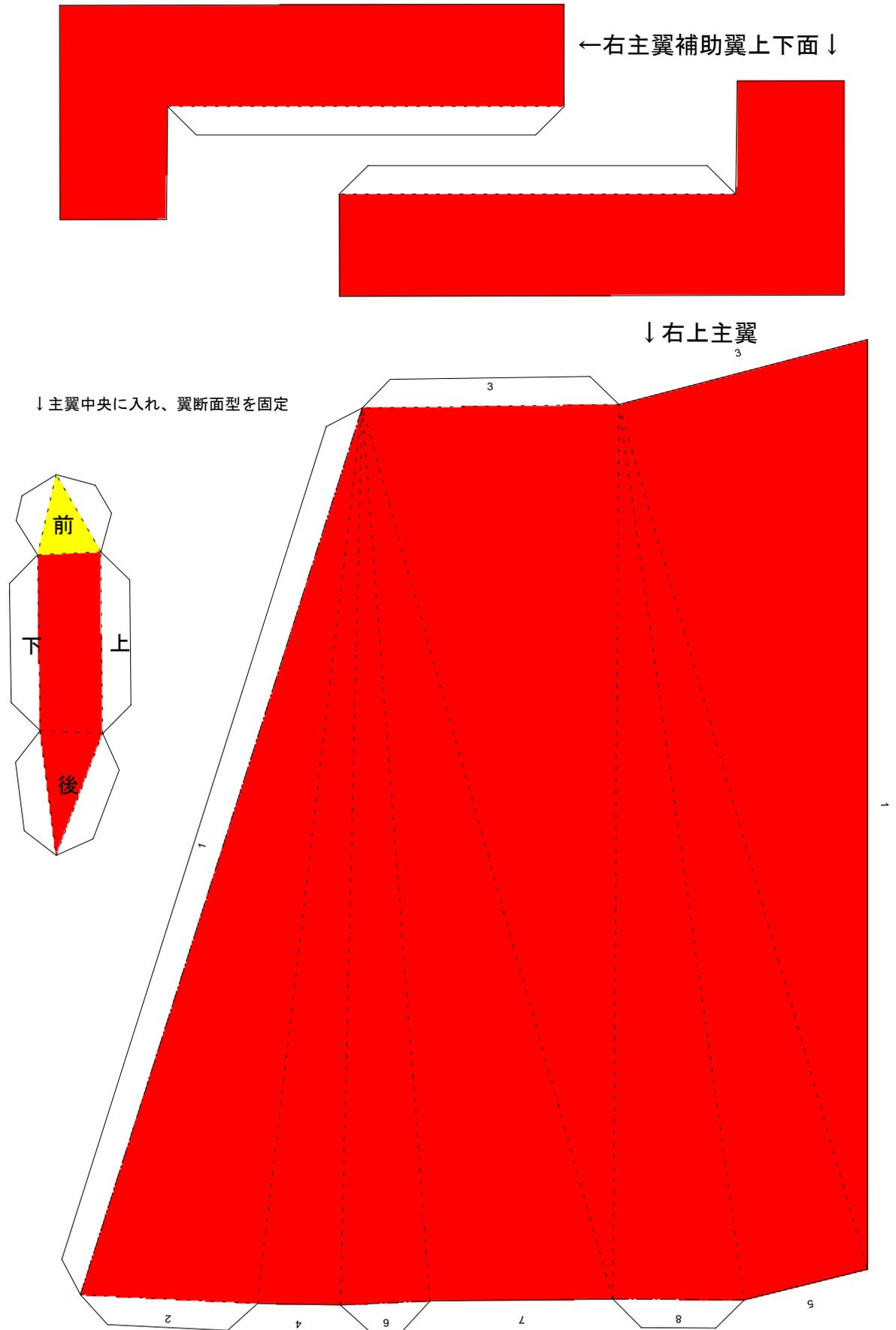


主翼中央に入れ、翼断面型を固定↓

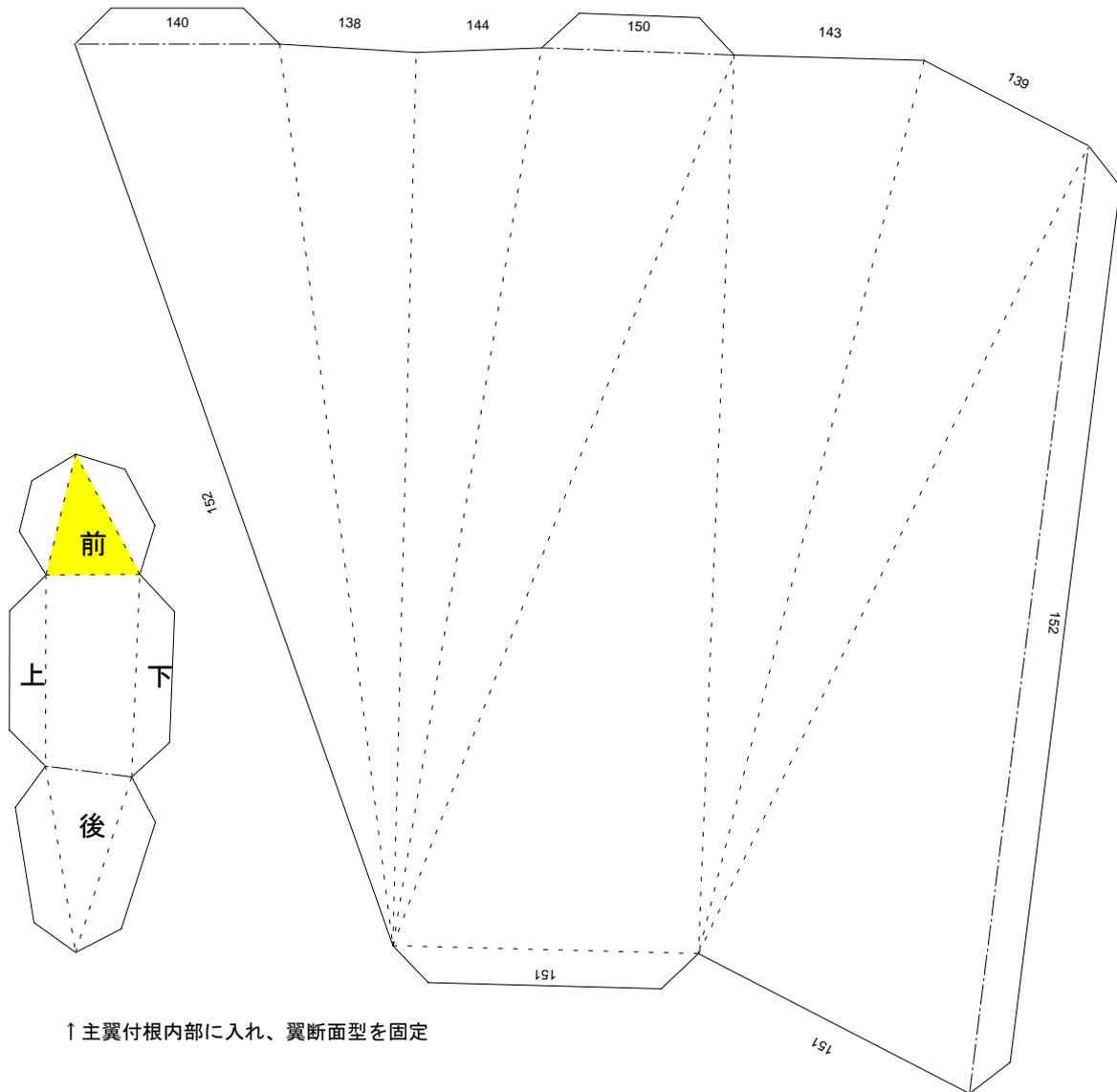
展開図の作成には多摩ソフトウェアの「ペパクラデザイナー」というソフトウェアを利用しました。

三翼機 2/9

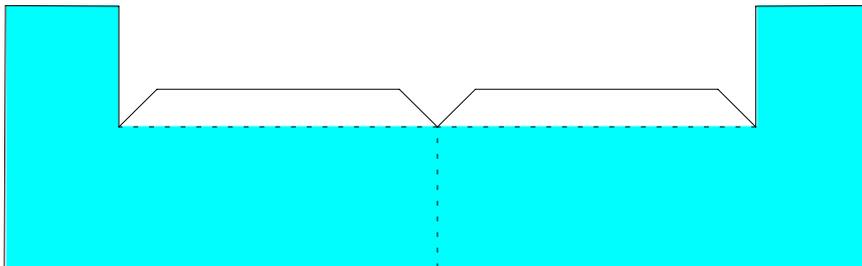
補助翼、昇降舵、方向舵可動面及びプロペラ翼は裏表面の間に厚紙を挿んで強度を上げてください。



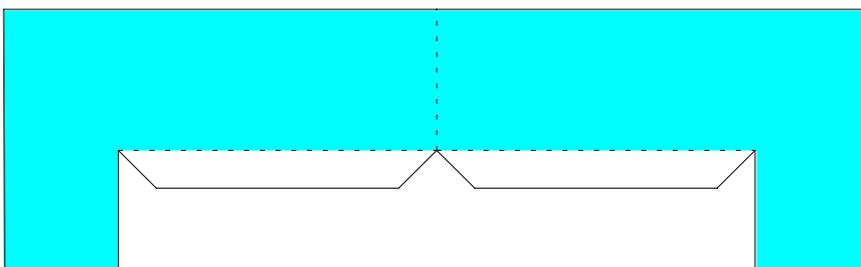
↓左中主翼



↑主翼付根内部に入れ、翼断面型を固定

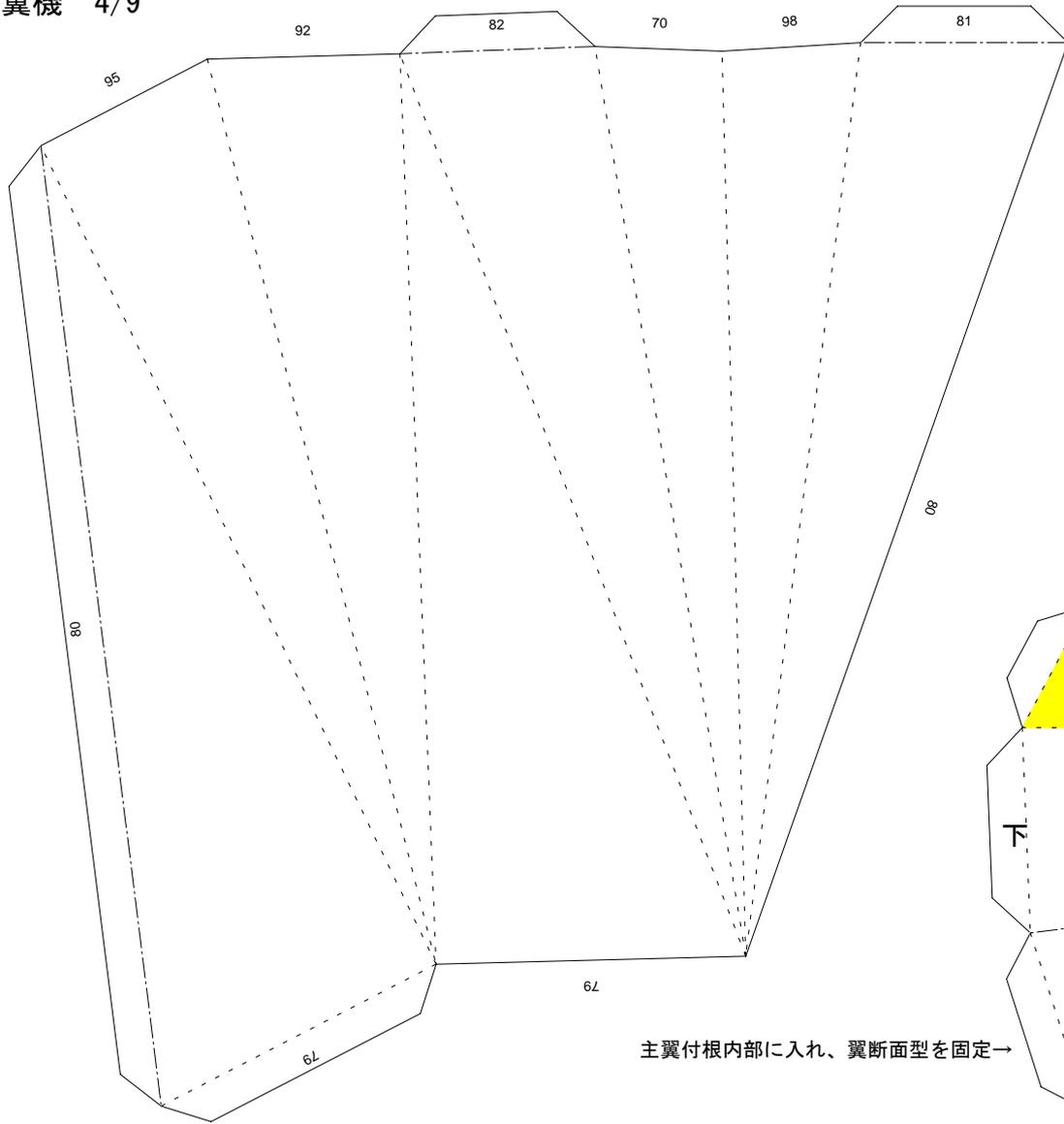


昇降舵上下面



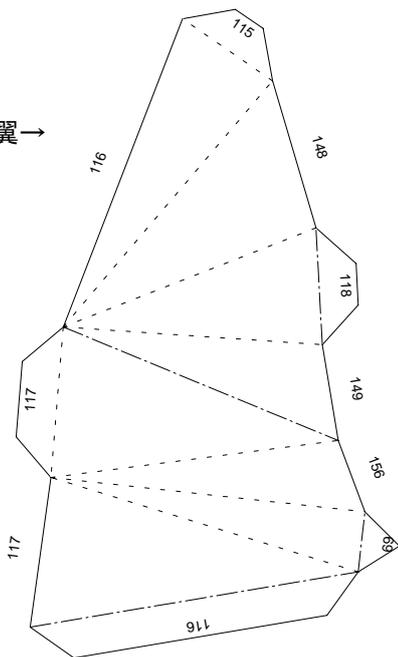
三翼機 4/9

↓右中主翼

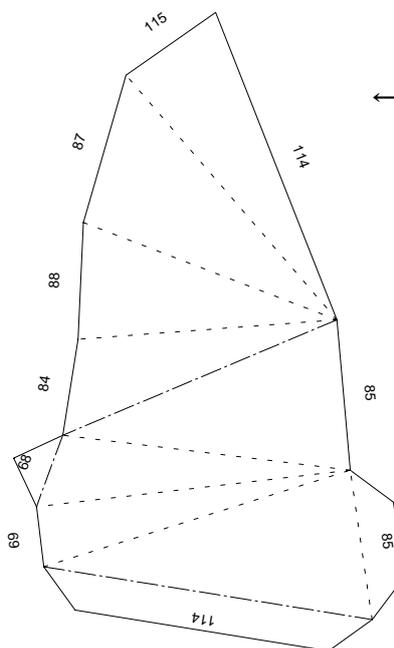


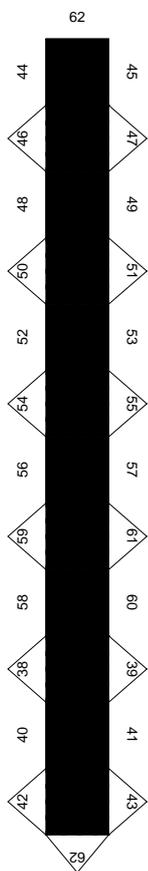
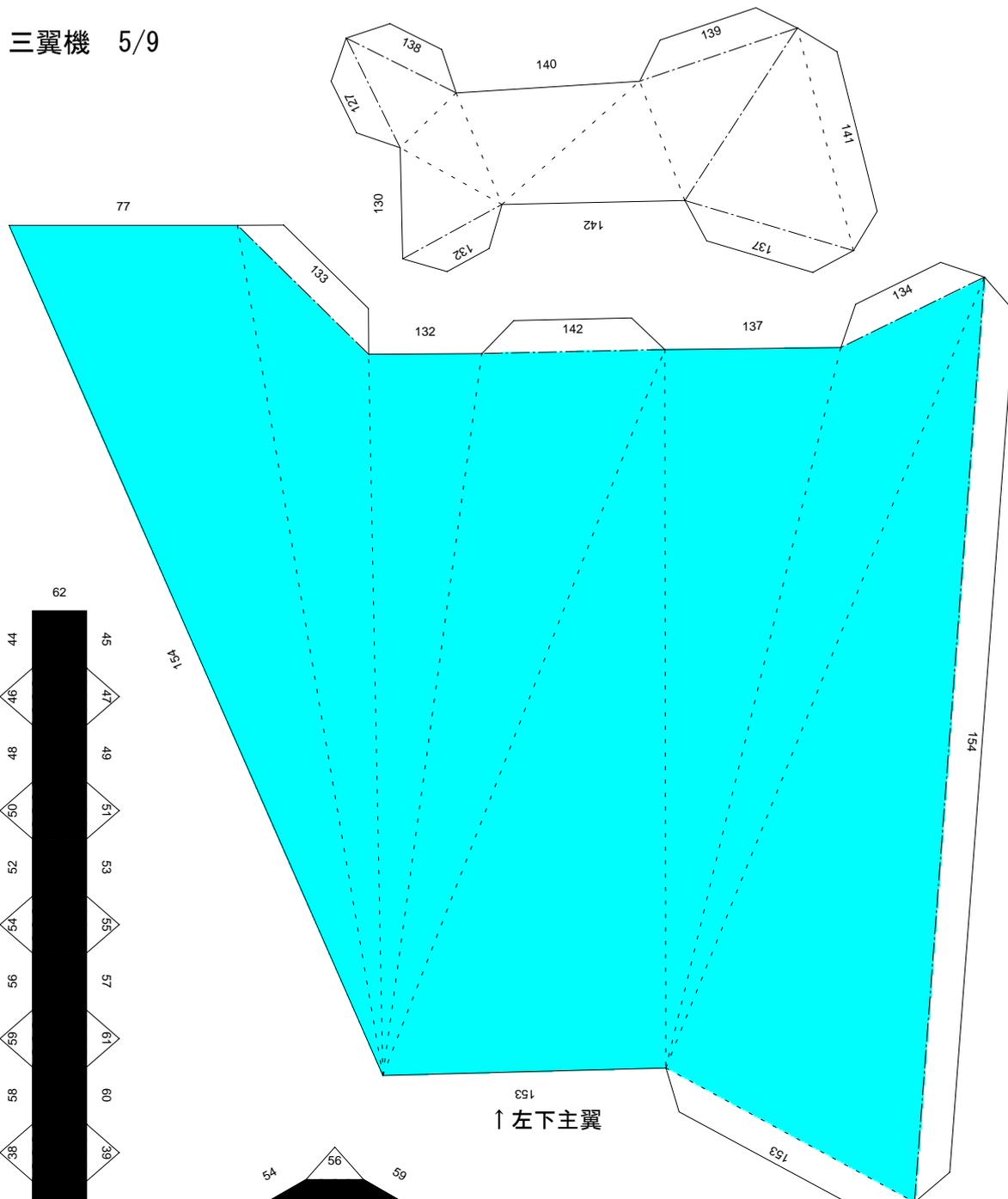
主翼付根内部に入れ、翼断面型を固定→

左水平尾翼→

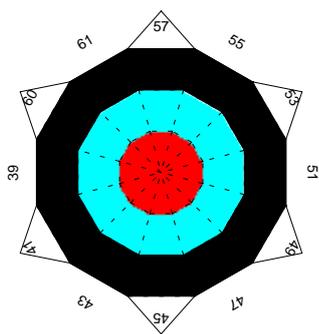
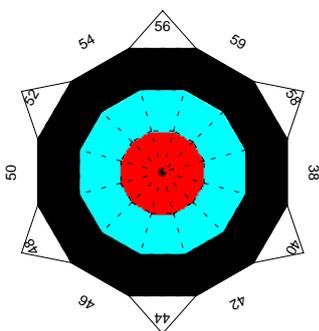


←右水平尾翼



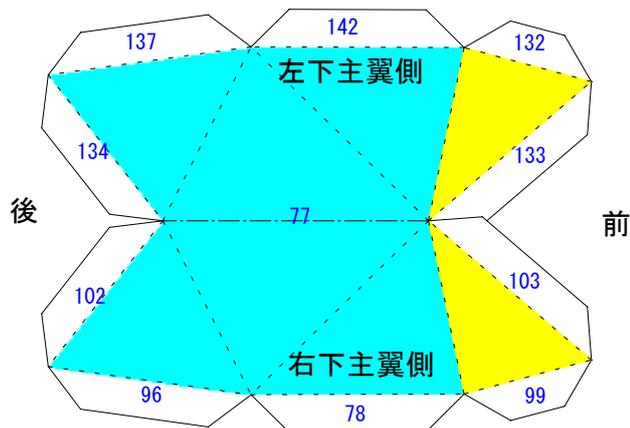


主車輪



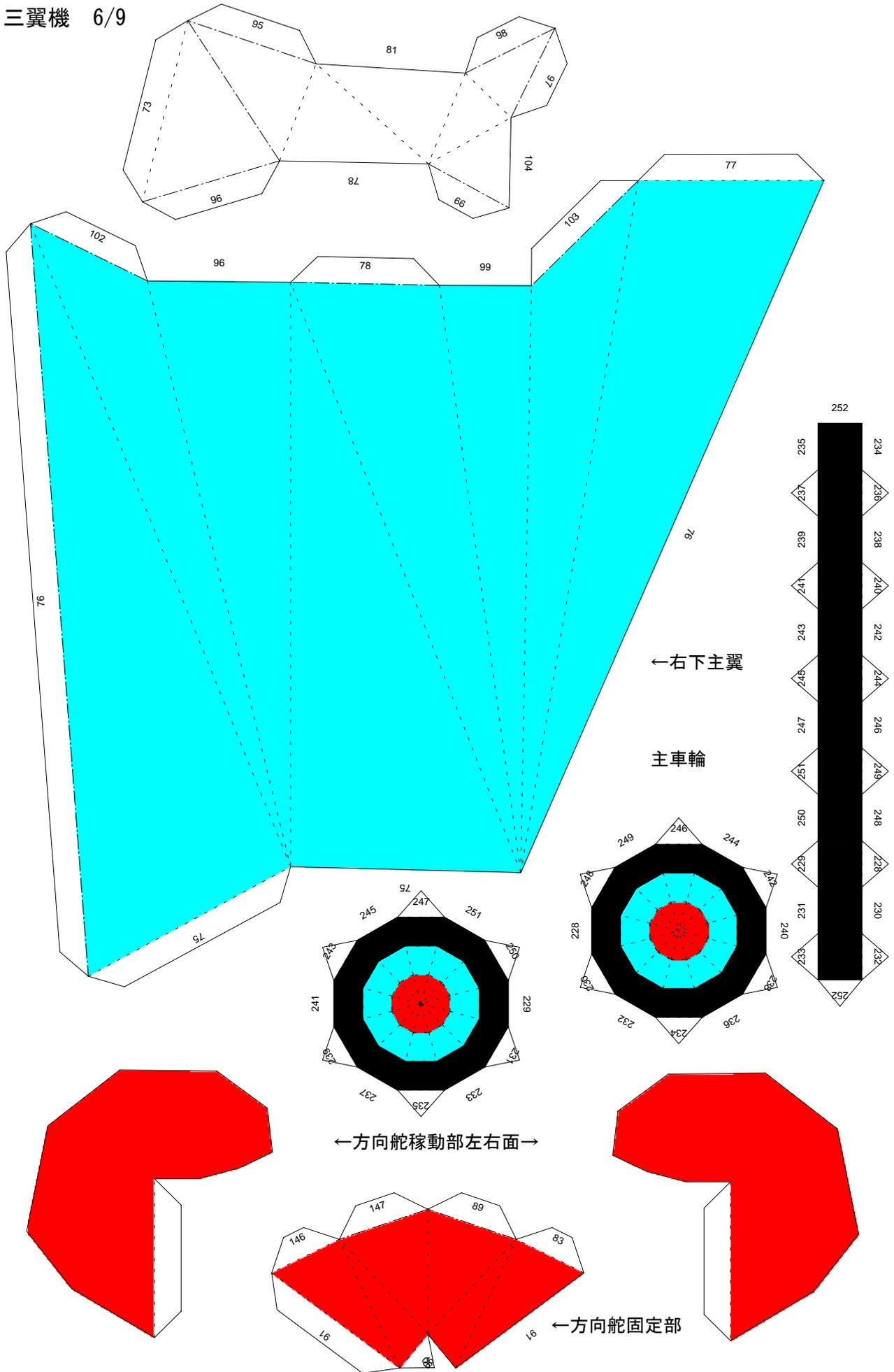
↑ 左下主翼

← 主車輪の裏側に丸く切った厚紙等接着しておき強度を上げておいた方がよいでしょう。大きな機体なので強い重量がかかります。

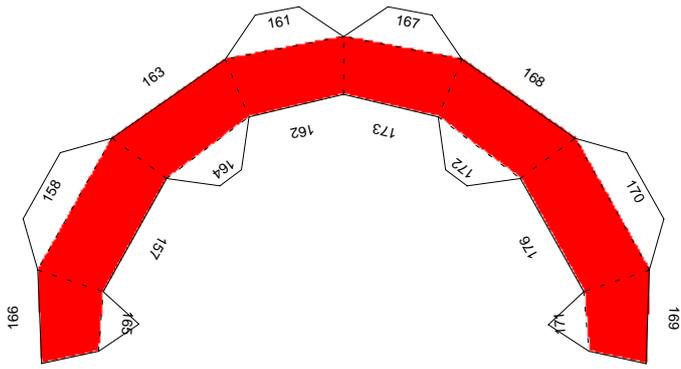
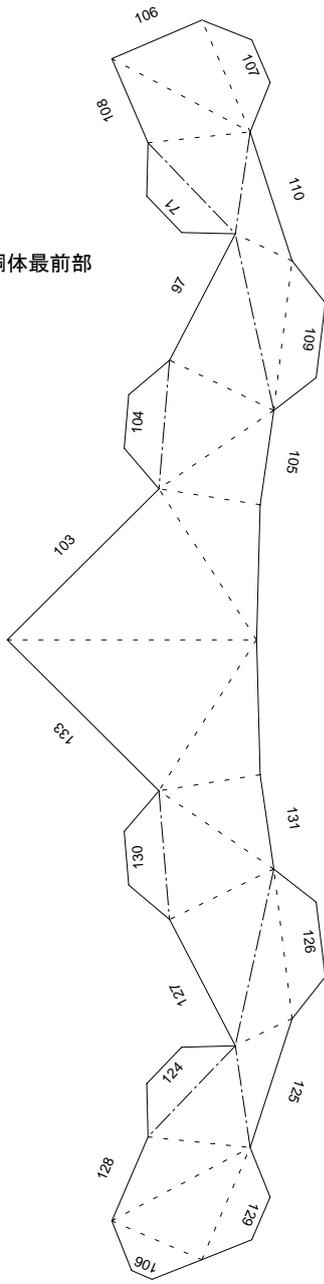


下主翼付根内部に入れ、翼断面型を固定↑

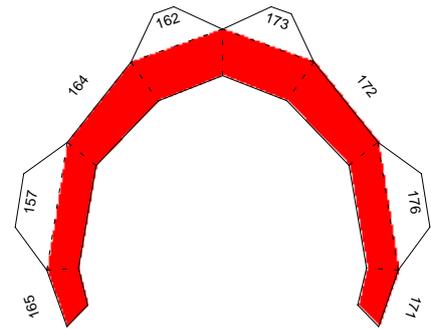
三翼機 6/9



胴体最前部



カウリング



重要な注意事項

↓私は2本の主脚の間にストローを接着し中に竹ひごを通しました。竹ひごの両端に主車輪の中心を固定し、回転可能とできます。

- ①主脚はありません。厚紙で適宜作成願います。
接着位置は部品Aの直後、長さ4cm程度です。
 - ②尾輪はありません。竹ひごや厚紙で胴体後部に適宜設置願います。
 - ③複葉機時代の空冷エンジンはプロペラと一体で回転していました。その様子を再現するため
 - ア 細いストローを部品AとBの中心に穴をあけて貫通させる。
 - イ ストローに竹ひごを通し、竹ひごの後端に糸を巻きつける等して前に抜けなくする。(竹ひごは回転はするが前には抜けない。)
 - ウ ストローから前に飛び出した竹ひごにシリンダブロックの中心を前後に貫通させ固定。
 - エ シリンダブロック前面から飛び出した竹ひごにプロペラスピナ及びプロペラ翼を固定
 - オ カウリングの中で回転しているシリンダブロックに シリンダーを6個固定
- 上記手順でエンジン及びプロペラを設置します。

↑胴体を完成させてからエンジンやプロペラを組み込むことは不可能です。胴体後部を閉じる前に、エンジン及びプロペラまで組み立てを終えている必要があります。

↑シリンダブロックの前後位置は部品Aから前に飛び出したストローの長さで調整します。

カ 翼間の支柱はありません。竹ひご等適宜接着剤等で固定してください。

←部品A ←この部品を赤いカウリング後端部分に挿入し、胴体の断面を固定。

